



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	台所の改善について (その1のつづき)
Author(s)	久田, 都代子
Citation	琉大農家便り(15): 9-10
Issue Date	1957-02
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19646
Rights	

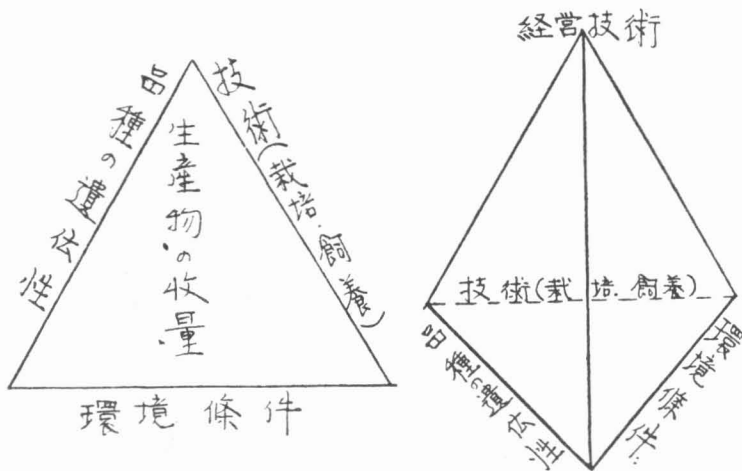
に統合され、該、機運の手段となつてこそ価値がある。然し何といつても農藝經營に於ては、巨機運のために先づ生産しなければならぬから、その基礎として生産の原理を明らかにする必要がある。

農業生産の面 に於て一定面積の土地、又は資本の活用により、最大の生産を挙げるといふ目的を達するために、作物と家畜に就ての生理に基く次のような理論が考えられるようになった。即ち(1)作物や家畜自体の遺伝性、(2)環境条件、(3)技術(栽培又は飼養の技術)以上三つの条件が揃わないと生産物の収量の多きも望めないし、従つてその増大も期待出来ないということになる。即ち ①農業生産の中心をなすものは作物や家畜自体であつて、それの持つ生産能力の優劣が生産の成否を決定する。特に品種の持つ先天の性質、遺伝性が優秀でない限り、到底生産の増大及び品質の向上は望まれない。苦しい品種の持つ遺伝性が悪ければ、作物の栽培や家畜飼養の技術に欠けるところが無くても結局は十分な生産は望まれないということになる。

②次に遺伝性に代つて環境条件が問題となつて来る。氣候風土がその作物や家畜の生育を完全に許さない場合には、たとえ遺伝的に優秀な能力を備えるものであつても、生育不良に陥り充分な生産は望まれない。のみならず環境の影響は、その不良の程度に応じて現れ、生産物の減収を来し、極端な場合は、生産皆無は勿論のこと、生物体の生存さえ許さない場合がある。それ故作物の栽培や家畜の飼養に當つて理想とするところは、作物や家畜自体の遺伝的性質が極めて優良であると同時に、環境が良好で生育が完全に行われ、その作物や家畜の能力が充分に發揮されることを望む訳であるが、總ての場所が必ずしもかかる条件を備えているとは限らない。否環境として完全な場合は殆んど無いといつてよい。従つて自然のままでは生産の効果は望まないものである。

③然し環境条件が多少悪くても、人力によつてそれを改善して、作物や家畜の育する能力を原状まで發揮させることは可能である。即ち耕地の水の不足する場合は、人工的に灌漑を行い、瘦せた土地には耕うん、施肥に依つて養分を増加し又土壌

の物理的性質を改良して生育を助長させ、特別な場合には温床温室の設備さえして適当な温度を与える等の事により、環境条件を改善し、以て作物栽培や家畜飼養の目的を達することが出来るのである。それが所謂作物の栽培や家畜飼養の技術である以上作物や家畜の持つ遺伝性、環境条件、栽培、飼養の技



術三者の間に合理的調和が得られれば、作物や家畜は最大の能力を發揮して生産の目的たる最大の生産と最大の純益が実現される訳である。今其の關係を圖で示せば次の様な三形を以て現すことが出来る。

即ち生産物の 収量と品質は最大の生産としてその面積となり作物や家畜の遺伝性、環境条件、技術栽培、飼養の技術は三辺を形づくる。何れの辺も同等に満足すべき状態に1となれば三形は正三角を示して面積は最大となり、最大の生産が得られ、若し何れかの辺に不足があつて1を示さなければ三形は不等辺となり、面積は減少し、更に極端な場合は辺を欠いて遂に三形を作り得ないことになつて、作物や家畜の能力は發揮されず生産の目的は達せられないことになる。故に作物や家畜の生産の増大にはこの三形形の各辺の増大、従つてその面積の増大に努力が払はなければならない。即ち作物や家畜の生産の最大を期待するには、先づ作物や家畜の持つ先天的能力ー遺伝性、これは品種によつて異なるものであるが、それに就いて充分の検討を加えなければならず、更にそれに基いて氣候、風土との關係を究め、栽培、飼養の適當な方法を考究せねばならないということになる。尚前にも述べた通り、それらの三つの条件は生産要素として三角形の三辺を形成するものであるが、これらの生産要素は經營の技術によつて統合され、そしてその經營技術を頂点とする三角錐の立体を形づくるとき、經營の技術が高ければ高い程その体積は増加し、その究極の目標である最大の純益を挙げることが出来るということになる。

(新垣 眞保)

台所の改善

(その一のつづき)

△流しの構造

流しの構造にも、一槽、一槽、など種々ありますが、今迄の「流し」は殆んど、凡てが一槽です。特に、農家では、畑から掘つてきた芋や、大根の土の洗いおとしをする流しは、普通の流しの傍に、もう一つ設けないもので

す。このように流しも一つより、二つあった方が都合のよいことが判ります。普通、一つで、まな板を使えば、食器も洗いますので、食器を「流し」に運ぶと、大きい洗い桶が一緒になり、時にははみ出して窮屈になります。これが二槽流しの出現の理由です。つまり大きい「流し」の支切りをし、一方を普通の一八種程度の深さにし、他方を二五―三〇種位の深い「流し」にするのです。深い方は栓をして水や湯を入れて皿等を洗うのに使用し、その間、浅い方も充分に広く使えますので非常に便利です。普通、流しの左側に水切り台を付けます。そこへ洗った食器かごをおくため、たまつた水を流し方へ流してやるため多少の勾配をつけることです。

△流しの排水孔は

ハイスイコウ

「流し」には凡て排水孔がついていて使用後は直ちに排水される仕組みになっています。この設備が悪いと飯粒や、野菜くずが流れ込んで途中つまつたりあふれたりして、不愉快です。「流し」を選ぶ時は排水孔の仕様けいはすし易く、緊めやすいものには注意する事が大切です。市場には、外観の見栄がよくてもこのからくりの甚たお粗末なものがよくあります。排水孔の位置を次の図に示してみましよう。

(イ) 奥中央にある場合

金属板を張るときは勾配をつけやすく掃除し易い。

(ロ) と (ハ) は左右の奥隅にある。

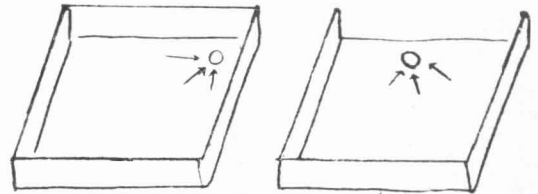
「流し」の下を利用する場合は排水管が隅におさまっているので広く使えて都合がよい。

(ニ) 中央に設けられると、排水管がどこでもじやまになることが多い。

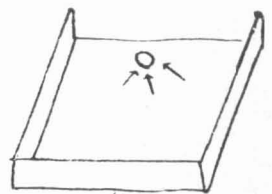
註、御飯粒や野菜が、流れ込まないようにストレーナー（ごみよけ）をつけることが大切です。

△「流し」の下の利用

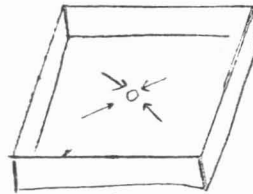
台所の遺積は器重ですから、「流し」の下はよく戸棚として



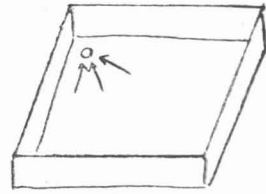
(ロ)



(イ)



(ニ)



(ハ)

利用されますが、湿気があつても、さしつかえのない器具や生野菜の置場所とした方がよいと思ひます。棚は掃除のし易いように取はずしの効く、すのこ板にしましよ。

採元と換気のため出来れば窓をとりつける方が望ましいです。戸をつけるにしても、金網張り向ひらき式にして換気の良いようにしたいものです。

△流しの寸法は……

「流し」をどれ位の高さにすれば、仕事の効率が悪く、姿勢に無理がないか？ 先ずこれを決めなければなりません。これ迄の流しは低すぎます。

「流し」の高さと三つと普通、流しの縁の高さを云いますが、厳密に云うと床から流しの戸までの高さが問題になります。適

当な流しの高さは働く人の身長と関係があり、そこで使用される器具類の高さ(まな板、洗い桶)等とも、密接な関係があります。

つまり、平均一五〇種の日本女子標準身長をとれば、その寸法は――

流しの高さ・七六―七九

（実際はまな板の高さで調節出来る。）

身長の一五三、三％位

深さ・一五―一八

（底にすのこか、ゴムをして十八種）

奥行・六〇―六五

△その位置

先ず勝手口に近いこと

厨房物の処理に便利なところ明るくて清潔の保てる場所以上流しの方をまとめましたけれど、その他の設備等については又の機会にゆずりたいと思ひます。

(久田 都代子)

あしがき

先月号の記事中、表題「バナナの栽培手引」としてあるのは「バナナ栽培の手引」の誤りでありましたから、訂正して下さい。執筆並に読者の皆様に御迷惑をおかけしました事をお詫言します。

今月の養殖週間に備え、今回は「苗木の植付けと育て方について」の記事を特集しましたから、何卒精読なさいまして御利用下さい。

発行所 琉球大学農家政学部
 発行人 島 袋 俊 一
 印刷所 沖繩タイムス社